

第 9 回ワークショップで出された主な意見

第 1 部 前回議事概要と前回意見への対応

【第 8 回ワークショップの議事概要について】

- ・ この WS では、この部分は絶対にダメという事項を決めればよいのではないかと、という意見がぬけているので、追記してほしい。

【漁対協案と代替案の定性的な比較について】

- ・ これまでの経緯という欄に前年度までの WS の成果が入っていないので、入れるべきではないか。
- ・ 漁港建設は当面無理であるという話がなぜ記載されていないのか。
- ・ 秋の台風シーズンに向けた解決策を中心に議論すべきではないのか。
- ・ 漁業者の立場としては、荒天時の他港への避難はできる限りしているが、限界がある。また、他港への拠点移行は現実として無理だと考えている。
- ・ 恣意的な比較となっているようである。(たとえば、マリーナでの係留費用が高い等は建設費と比較して総合的に考えるべきだろう)
- ・ 行政側の仕事を進行することしか考えていないのではないかと。市民の気持ちをくみ取っていない資料である。

第 2 部 今年度のワークショップのテーマの検討

【今年度のテーマについて】

- ・ 漁港の具体的な検討をしていきたい。
- ・ 漁港案は漁対協案ということなので、その他の案を検討すべきではないか。
- ・ 去年の WS の成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう。
- ・ 水産業についてどのようなビジョンを持っているか、漁業者の方々の話が聞きたい。

【検討のやり方について】

- ・ 議論が進まないため、グループに分かれて検討すべき。
- ・ 同じ思想の人があつまってグループワークをしても仕方がないため、全体で検討を行うべき。
- ・ テーマを決めて、そこから外れないように検討する方が、効率化という点はグループに分けるより有効ではないか。

【その他】

- ・ 漁港建設に反対する人は、自分の居住地の前につくられるから反対なのではないかと。本音をしりたい。
- ・ 最初はそうだったかもしれないが、今は違う。市民の立場として、鎌倉市の税金の使途が適切かという視点で考えている。
- ・ このような対立は不毛であるため、やめた方がいい。

- ・ 湘南地域の他の漁港のように、いったん埋め立てをしたら、埋め立て区域が拡大し、環境が悪化することを懸念している。
- ・ 環境の悪化にもっとも影響を受けるのは漁業者であるため、そのようなことは生じないのではないかと。

【旗揚げアンケートの結果】

① 今年度のワークショップで検討したいこと

No.	回答	旗の数
1	将来的な漁港整備に備えて、「もしも漁港が整備されるなら」という視点から、「具体的な計画案や代替案」について検討したい。	7
2	「もしも浜を使った漁業が続けられるなら」という視点から、現状の課題に対する「現実的で具体的な解決策」について検討したい。	5
3	将来的な漁港整備の是非を判断するために、「いずれの場合においても必要だと考えられる項目や課題」について整理するとともに、詳細に検討したい。	8
4	将来的な漁港整備の是非や現状の浜利用の漁業継続にあたっての課題解決についても、どの視点からアプローチしたらよいか、どう考えたらよいか、まだ判断できない。	2
5	その他	5

【その他の意見】

- ・ 漁港整備の是非を判断するのではなく、鎌倉の水産業のビジョンからやりたい
- ・ 同じ意見。今回のWSはなくてもよい。このWSとは別の会を市民参加の基に立ち上げた方がいい
- ・ どうしても行政が漁港を進めたいという印象を受けるので、このWSは終わりにしたい。
- ・ 今後の進め方というのであれば、政策創造部などと一緒に進めていくべき。
- ・ 全体から話す機会を再度、コーディネートし直してはどうか。今回のWSに参加している人で、そちらに参画したい人、他の市民や関係者も募って別建てのWSをやるべき。

② 今後のワークショップの進め方

No.	回答	旗の数
1	グループワーク（3回）を通して、徹底的に話し合いたい。	4
2	グループワーク（2回）の後に現地踏査（1回）を行い、検討した内容について検証する機会としたい。	1
3	まず、現地踏査を行うことで現状の課題の把握をし、その後、グループワーク（2回）を通して、具体的な提案を検討したい。	0
4	グループワーク（1回）を行い、次ぐ現地踏査で現状の課題の把握をするとともに検討しようとしている提案について検証し、2回目のグループワークでさらに内容を深めていきたい。	1 1
5	その他	5

【その他の意見】

- ・ 現地踏査というが、どんなシーズンの何時頃にするつもりでいるのか？
- ・ 何時頃に、何を見るのか、それがとても大切なことだ。
- ・ 船の出し入れが危険を伴うことやそれを実際に体験してもらおうなど、外から眺めていてもわからないことを知る機会にしてほしい。